13　次世代育成事業

指定期間（5年間）に実施する事業概要（方針）

基本方針

●『アーティストバンク制度』を基軸に幅広い支援策へ

・「若手芸術家育成」については、第一期では「レジデントアーティスト事業」として力を入れてきたが、第二期では、対象者選定や活動内容のあり方を見直して**『アーティストバンク制度』**に改編し、新たな体制で育成を行っていく（*※詳細は次頁参照*）。

・また、新規事業として、今人気の**「バレエ」**で、著名なバレーダンサーの熊川哲也氏が主宰するKバレエカンパニーの全面協力で、日本で担い手が不足している「若手男性ダンサーへの支援」を行う。

・**「横浜市芸術文化教育プラットホーム」**については、第一期からアウトリーチ活動を多数実施してノウハウや経験を蓄積しており、二期目は、そのノウハウ等を踏まえてより効果的に実施していく。

・この他、一期目より充実した**「区民企画委員制度」**や**「学生インターンシップ」**など、次世代育成に向けて**幅広い支援策**を積極的に実施していく。

具体的な取組（概要）

●横浜市芸術文化教育プラットホーム：学校プログラム

＜概要＞

・横浜市の重要な取組である当プラットホームの取組（学校プログラム）については、全面的な支援・協力を行っていく。第一期では、毎年度、コーディネーターとして3～4校を担当し、本施設がアウトリーチ活動をした所からは大変好評を得ている。

・第二期では、こうしたノウハウや経験を存分に活かし、規定の実施数に従って、さらに内容を充実させていく予定。

・なお、本施設で手配するアーティストは、**「アーティストバンク」（既述）**に所属する人材を想定している。

●「ボーイズバレエ」　（主催）

＜概要＞

・昨今活躍が目覚ましいバレエ男子を重点的に応援するためのワークショップ。人口が少ないバレエ男子の「出会い」と「ステップアップ」をサポートする。

・**熊川哲也**氏率いるKバレエカンパニー直轄のKバレエスクールが全面的に協力し、確かな指導力を持つ男性講師陣が、伸び盛りの青少年達を指導する。

・単なるワークショップにとどまらず、5日間という長期日程を設定し、最終日にはホール舞台上で**「コンクール形式の成果発表会」**を行う。これは、ローザンヌコンクール等、海外コンクールを模した方式であり、国内では他に例を見ない。

・なお、「成果発表会」は、受講年齢に満たない男子、男子と躍る機会が少ない女子、男子の生徒を抱える指導者などの学習機会として、**「一般公開」**（有料）で行う。

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

13　次世代育成事業

●「アーティストバンク制度」　（主催）

＜概要＞

・一期目では、若手芸術家育成の一環として、アーティストとホールスタッフが協働した事業づくりを目的に『レジデントアーティスト事業』を活発に行ってきた。当アーティストは、施設外にも積極的に出向いて、区内各所（地区センター、子育て支援施設、学校など）で「豊富なアウトリーチ実績」も残してきた。

・二期目では、下記の通り、当該事業を再編・強化した上で、自主事業（アーティストプラスワンハンドレット、アウトリーチ活動、等）に、出演者等として携わっていただく。

＊アーティストの「選考」及び「登録」

本施設で登録者を広く募集し、**「選考会」**を通じて選定する。選考会では、希望者が自らの活動についてプレゼンテーションを行い、一定レベル以上と認められた場合に**「アーティストバンク制度」**に登録される。既に演奏・創作等の活動を行っている若手芸術家が主な対象。

＊アーティストの「手配」

登録アーティストは、**活動内容等をリスト化**し、ホームページ・パンフレット等で広報する。学校行事・各施設のイベント、祭りなどで、アーティストを必要としている個人等は当リストを見て、望む人がいれば手配を依頼する。なお、アーティストは、先方が一任すれば、本施設自身が選ぶことも可能。

＊アーティストと依頼者の「仲介」（有料）

アーティストの都合と依頼者の希望を取りまとめとともに、公演内容についての立案・アドバイス、出演者の編成・調整など、コーディネート役を担う。

●区民企画委員制度（アートマネジメント系実践講座等）　*⇒様式 22（連携機能）を参照*

●学生インターンシップ　*⇒様式 22（連携機能）を参照*

平成 28 年度の事業（予定）

●関係先とも連携して「効果的かつスムーズな実行」へ

・下記の各事業は、**現場の担当スタッフ**（複数の自主事業担当など）を中心にした**実施体制**によって、連携先等、関係者と緊密に連携しながら、効果的かつスムーズに実行していく。

・なお、**「実施の頻度」**については、関係者との調整などもあるため、現時点で暫定的なものであることをご留意いただく。

事業	概要・体制・意図等	頻度	効果	連携先等
横浜市芸術文化教育プラットホーム（学校プログラム）	*※前述（本様式内を参照）*	3回	地域の文化の底上げ 本施設事業（特性）の有効活用 人材育成	*※前述*
ボーイズバレエ	*※前述（本様式内を参照）*	1回 （8 月）	地域の文化の底上げ 人材育成 話題性づくり（市内区民文化センターで稀な事例）	*※前述*
アーティストバンク制度	*※前述（本様式内を参照）*	審査： 1回/年 （6 月）	地域の文化の底上げ 人材育成 事業制作の効率化	*※前述*
区民企画委員制度	*※前述（様式22を参照）*	—	—	
学生インターンシップ	*※前述（様式22を参照）*	—	—	

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

14　連携機能

指定期間（5年間）に実施する事業概要（方針）

基本方針

●「区の方針」に基づいた、的確な事業実施

・基本的に、**区の方針**（業務基準など）に基づき、下記ポイントを押さえて事業を的確に実施していく。

【市民協働の視点】

・「区民とともに企画する事業」の実施。
・地域団体との協働で実施された「地域に定着している文化事業」：区の共催事業として継続実施。

【ネットワークの構築】

・シークレイン内の「コミュニティハウス、国際交流ラウンジ」との連携
・近隣の地域施設や各種団体等とのネットワーク構築
・当該ネットワーク内で継続した「情報交換」「共同事業」「連携事業」などの実施

【アウトリーチ事業】

・区内の他施設を会場とした鑑賞や普及事業の展開
　⇒来館が困難な方等に「文化芸術に触れる機会提供」及び「潜在的な利用者の掘り起こし」

●「定番の取組」を発展的に継続

・一期目に実現し、区民や利用者から一定の評価を得てきた「下記の取組」については、方法を工夫・改善しながら、発展的に継続していく。具体的には下記のとおり。

＊区民企画委員制度：
活動の方法や進め方などを見直し、より充実させる。

＊アウトリーチ事業：
従来の区内各施設（地区センター、スポーツセンター、公園等）に加えて、これまで行けなかった施設（特に病院、老人福祉施設、障がい者施設など）に積極的に出向いていく。

＊シークレイン公益施設（国際交流ラウンジ、コミュニティハウス）との連携：
日々のやりとりや定例会議に加え、**3館合同の夏休みオープンデー**（毎年1回）など、緊密に連携・協力してきたが、シークレイン全体の安全確保やサービス向上のため、より関係を深めていく。

●「鶴見区文化協会」をはじめ、地元文化系団体への支援　～「区民文化祭」を重視

・**「鶴見区文化協会」**については、開館前から協議し、毎年、優先予約や利用料減免を行っている。特に、区民文化祭では、本施設使用が延べ約1か月に及ぶため、ホール・ギャラリーの**「優先予約」**や**「30%利用料減免」**を行っている。地域文化振興と財政負担軽減のため、今後も支援していく。

・この他、区内の主な文化団体等に対し「利用上の便宜」（優先予約）を行っている。
実績例：つるみ文芸協会（コンサート等）、鶴見法人会（寄席、コンサート）、YOUTV（コンサート）

●「文化的コモンズ形成」に関連した取組

・連携業務の実施にあたっては、右図の通り、**文化的コモンズ形成**（地域ネットワーク形成への寄与）に関する「指定管理者の役割」を踏まえつつ、文化的コモンズ概念の基になった、（財）地域創造による「調査研究報告」（※様式15参照）の考え方を参考にする。

・具体的には、“文化的な営みに携わる人材・情報・活動を包摂した拠点”としての公共ホールの役割のうち、**「地域文化のプラットフォーム」**（地域の人達が自由に利用でき、多様な活動に参加できる、交流や活動の基盤）や**「地域のコーディネーター」**といった側面に特に着目し、「地域との連携」（ネットワーク化）を推進していく。

⇒詳細は、様式15（調査研究）を参照

『指定管理者』の役割
～文化的コモンズ形成～

①多様な地域主体との連携構築
②事業実施（共同事業など）
③多様な主体等のリサーチ
④地域文化のコーディネート役
　例）施設外のｱｰﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

14　連携機能

具体的な取組（概要）

「市民協働」の視点

●区民企画委員制度

＜概要＞

・参加者を「鶴見区内在住・在学・在勤の方」から募集し、文化事業の制作に関して、準備から本番対応まで、本施設スタッフのサポートの下、自主的に関わっていただく。

・第一期では、**区民企画委員の発案**によって「自由演奏会」「ツルミユースウィンドオーケストラ演奏会」「コーラス発表会」「演劇ワークショップ」「アフリカンダンス」などを実施してきた。

・「定例の企画会議」を原則、毎月行う一方で、2 ヶ月に1回程度のペースで**「ワークショップ」を開催**する。

＜特記事項：『ワークショップ』について＞

・文化芸術活動に本格的もしくは組織的に関わる上で必要となるスキルを習得していただくため、**「アートマネジメント系の実践講座（ワークショップ）」を**シリーズで開催する。広報チラシ作成、レセプション、予算作成等について、座学と実践の両方で学ぶ。

・当講座は、区民企画委員制度の一環として行うが、可能な限り（部分的に）**「一般開放」**も行っていく。これにより、区民など、より多くの人達が文化芸術活動に関わる「きっかけ」にしてもらう。

・さらに、「区民サポーター」（下記参照）で既に見られる現象だが、当制度の“常連”（＝長期間、積極的にやる方など）が**将来的に“リーダー”となっていく**可能性も十分ある。よって、指定管理者としては、その意識も持ちながら当事業を進めていく。これにより、鶴見区において**「地域文化のコーディネーターまたはプロデューサー」**が育っていく流れを作る。

●区民サポーター

・鶴見区内在住・在学・在勤の方から募集し、ボランティアとして、主催事業の公演当日のサポートをしていただく。

・具体的には、本番時に「チラシ折込」「チケットもぎり」「パンフレット渡し」「客席案内」などをお手伝いただき、一段落した後は、実際に公演の鑑賞もしていただく。

・**「表方のサポート」**と**「公演の鑑賞」の両方を体験**することで、個人の文化芸術活動をより深めていただく。

・なお、当活動の前には**「レセプション研修」（マナー研修）**を受けていただき、ボランティアであっても、お客様の目線に立って「一人のホールスタッフ」としてきちんと対応いただくことを重視している。これにより、本施設としての**「接客レベル」を保つ**とともに、サポーター自身の「意識」と「スキル」の向上につなげている。

・また、業務終了後、各サポーターからその日の感想や意見を聞き、その後の活動に反映している。

ネットワークの構築

●「シークレイン内」との連携

＊公益施設3館での「日常的な連携・対応」

・現状、現場にて頻繁にやりとりしており、3館の関係は非常に良好である。電球の取り換え等、些細なことでも、何かあれば相互にすぐ連絡し、速やかに対応している。また、避難訓練や AED 研修も合同で行っている。

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

14　連携機能

＊公益施設3館の定例会議（隔月）

・原則として、各館長3名が集まって隔月で開催している。各館の事業・催し、建物の維持管理など、共通での認識や対応が必要になることを中心に協議している。

＊公益施設3館合同の『オープンデー』（施設開放）

⇒様式20（区等特性事業）を参照

＊「シークレイン内各店舗」との広報相互協力

⇒様式24（広報・プロモーション等）を参照

●「近隣の商業施設」との連携

・鶴見駅商業施設「シァル」内の各店舗とは、チラシ配架や割引サービス等の連携が出来ているが、今後は、駅周辺店舗を中心に連携先を拡充していく。

⇒様式24（広報・プロモーション等）を参照

●「地元の各種団体」との関係づくり

・毎月、**区内等の公共施設・商業施設等（200件以上）**にチラシを置かせていただくなど、過去4年の地道な努力によって「地元の各種団体」とは関係を築いている。

⇒様式24（広報・プロモーション等）を参照

・今後は、広報だけでなく、防犯・防災、まちづくりなど、幅広い分野で**「連携先の拡充」（自治会、商店会、学校、病院、福祉施設など）**を図っていく。

＜主な地元連携先＞

- 幼稚園・保育園
- 小・中学校
- 自治会・老人会・子供会
- 各店舗、商店会
- 区民センター、図書館など
- 介護・老人施設、病院
- 地元企業（事業所・工場等）
- 地元のサークル・NPO

●「近隣等の教育機関」との連携

・代表団体では、他施設にて**「学生インターン受入れ」**の実績があるが、今後は、鶴見区内で、**「ジョブシャドウ」（学生等による職業現場観察）**の受入れを含め、「芸術教育」や「若手人材の育成」などの観点から、文化芸術活動面での「学校との連携」を進めていく。

アウトリーチ事業

●“サルビアホールがやってきた”事業（＝アーティストバンク制度）

・第一期では、「レジデントアーティスト事業」をベースにアウトリーチ活動を多数行ってきたが、まず、当レジデント事業を改編して**『アーティストバンク制度』**を創設する。その上で、今後のアウトリーチ活動は、当バンク所属のアーティストを起用して行う。

⇒「様式21（次世代育成）を参照

・平成 26 年度だけでも、区内各施設へのアウトリーチを10件実施しており（わっくんひろば・スポーツセンター・地区センター・小学校・三ツ池公園等）、今後は、病院、福祉施設等、対象の「種類」の幅を拡げ「件数」も増やしていく。

・なお、当該事業は、**「本施設の認知度アップ」**と**「自主事業の本番公演の宣伝」**というアドパフォーマンスも兼ねており、「まだ本施設を知らない方」（未利用者、未認知者）へのアプローチを引き続き積極的に行っていく。

その他　～「文化的コモンズ形成」に関連した将来的な取組

●「地元の高齢者施設」などでの定期プログラム

・区内でも高齢化が進んでいる現状も踏まえ、**将来的な取組**として、老人保健施設等で定期的に**「音楽系プログラム」**を行う。例えば、施設内にコーラス隊（懐かしの民謡等）を編成し、関連するワークショップ等を開くなど、お年寄りの**「健康維持」**や**「生きがいづくり」**に貢献していく。

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

14　連携機能

●「公開討論会」（シンポジウム）の開催　～“東京オリンピック”も見据えて

・区内の文化芸術系団体、地元企業、学識者等を交えた**公開討論会（シンポジウム）の開催**を目指す。区内の文化芸術活動や文化資源の現状・将来について現場の実態を踏まえ、大局的に話し合う。

・また、率直な意見交換を通じて、相互の連携・協力を深めて、文化芸術分野での**「地域内のネットワーク作り」（文化的コモンズ形成の牽引）**を進めていく。

・さらに、こうした貴重な機会を活用して、本施設の10周年記念事業も見据えつつ、**本施設の年東京オリンピック**に向けた**『文化プログラム』の企画等**についても話し合うことを提案する。

平成 28 年度の事業（予定）

●関係先とも連携して「効果的かつスムーズな実行」へ

・下記の各事業は、**現場の担当スタッフ**（複数の自主事業担当など）を中心にした**実施体制**によって、連携先等、関係者と緊密に連携しながら、効果的かつスムーズに実行していく。

・なお、**「実施の頻度」**については、関係者との調整などもあるため、現時点で暫定的なものであることをご留意いただく。

事業	概要・体制・意図等	頻度	効果	連携先等
区民企画委員制度	*※前述（本様式内を参照）*	適宜 企画会議：月1回 ワークショップ：年1～2回程度	・地域の文化の底上げ ・地域の顔になる ・自らの文化芸術活動への寄与 ・非日常体験	*※前述*
区民サポーター	*※前述（本様式内を参照）*	適宜	・地域の文化の底上げ ・地域の顔になる ・自らの文化芸術活動への寄与 ・非日常体験	*※前述*
シークレイン内連携	*※前述（本様式内を参照）*	通年（適宜）	・業務・サービスの向上 ・相互の集客アップ ・地元経済貢献（消費促進）	*※前述*
近隣の商業施設との連携	*※前述（本様式内を参照）*	通年（適宜）	・相互の集客アップ ・地元経済貢献（消費促進） ・本施設の認知度アップ	*※前述*
地域団体との関係づくり	*※前述（本様式内を参照）*	通年（適宜）	・地域貢献（経済、防災、防犯、まちづくり等） ・本施設の認知度アップ ・相互の集客アップ	*※前述*
近隣等の教育機関との連携	*※前述（本様式内を参照）*	適宜	・教育振興（職場体験により） ・若手人材の育成	*※前述*
区民文化祭支援	*※前述（本様式内を参照）*	1回	・地域の文化の底上げ ・地域の方とのコミュニケーション向上	*※前述*
サルビアホールがやってきた（アウトリーチ活動）	*※前述（本様式内を参照）*	10回	・地域の文化の底上げ ・地域の顔になる ・来館が困難な方へ「文化芸術の体験機会」の提供。 ・本施設の認知度・誘客アップ（きっかけづくり）	*※前述*

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

15　調査研究

指定期間（5年間）に実施する事業概要（方針）

本業務に関する「基本的な考え方」

●本施設における「基本的な取組」

・**文化的コモンズ形成**（地域ネットワーク形成への寄与）における「指定管理者の役割」は、今回の募集要項等に基づいて、主に右図の通りを想定している。

・今回の調査研究業務(以下、本業務)について、基本的に、この**指定管理者の役割での位置付け（＝リサーチ）**を踏まえて実施する。当リサーチ活動を通じ、文化的コモンズの考え方や地域の実態について**理解を深め**、「地域のネットワーク形成」への**大きな基盤**としていく。

『指定管理者』の役割
～文化的コモンズ形成～

①多様な地域主体との連携構築
②事業実施（共同事業など）
③多様な主体等のリサーチ
④地域文化のコーディネート役
例）施設外のｱｰﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援

●文化的コモンズ概念の「本来の趣旨」に即した取組

・本業務遂行にあたっては、文化的コモンズ概念の基になった**『災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究報告書　-文化的コモンズの形成に向けて-　』**（財団法人地域創造、平成26年3月）で示された考え方・観点・取組事例などを十分に参考し、当概念の「本来の趣旨」をしっかり踏まえた取組を行っていく。

・特に、当報告書で提示された**「3つの論点」**のうち、「人々が自由に集まれる場所」としての公共文化施設の役割に注目し、ハード面だけでなく「文化的な営みに携わる人材・情報・活動を包摂した拠点」として捉える。

『文化的コモンズ』を巡る論点

①文化による「次世代育成」
⇒地域社会の持続可能性
②“文化的なつながり”を求めて
「人々が自由に集まれる場所」
③地域社会の変化に対応できる
「ビジョンの構築＆更新」

・具体的には、下記の通り、**「地域文化のプラットフォーム」**（地域の人達が自由に利用でき、多様な活動に参加できる、交流や活動の基盤）や**「地域のコーディネーター」**といった「公立文化施設において想定される役割(機能)」に特に注目して、各種の調査研究を行っていく。

1）「プラットフォーム」として想定される主な役割（＝場と機会づくり）

①域内の各主体との「日常的な関係づくり＆やりとり」
②域外の文化拠点や文化機関とのネットワーク(化)
③様々な種類・分野の主体とのリンク(双方向のネットワーク化など)
④平時から機能していること　※非常時にもきちんと機能

2）「コーディネーター」として想定される主な役割（＝仲介機能）

①地域の文化資源の保存・開拓・発信
②住民相互の交流
③バックグラウンドの異なる共同体どうしの関係づくり

本業務実施にあたっての「ポイント・留意点」

●「様々な制約」を踏まえた上での最大限の取組

・本業務は文化的コモンズに関連した調査研究であり**「一定の専門性を求められる新規の業務」**であるが、指定管理者(特に営利企業)として**「様々な制約」**(ヒト・モノ・お金、専門性等)も想定される。そうした中で「何でもやります」との態度は非現実的で無責任になるが、こうした制約を関係者間で十分踏まえ上で、行政当局や地域住民と密に意見交換をする中で「最大限の取組」を行っていく。

●「行政及び地域関係者」との緊密な連携

・指定管理者側が問題や解決策を独自に設定し、調査研究等を進めるのではなく、「行政当局」や「地域住民の方々」との**緊密なコミュニケーション**を通じて、必要な情報や意見を取集し、**関係者の意向に沿った取組**を行っていく。

●「外部の専門的な人材・機関」による助言・協力

・文化芸術・アートマネジメント・文化政策等（特に文化的コモンズ関連）、関連する分野で**外部の人材や機関（専門家、大学、研究機関など）からの助言や協力**を積極的に得て、「大局的・専門的観点」から調査研究の精度を高めていく。

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

15　調査研究

本業務の「実施体制」について

●「地域連携業務」とも連動した担当スタッフの配置

・本業務実施にあたっては、現場にて、本業務を重点的に担う「担当スタッフ」（他業務との兼務）を配置する予定。

・同スタッフは、文化的コモンズに深く関連する「地域連携業務」を兼務し、**「地域文化のコーディネート役」**も果たすことによって、よりスムーズな地域連携を図っていく。

・また、「各種の情報収集」（特に広域的なもの）や「他機関・施設との連携」においては、代表団体の本社（指定管理担当スタッフ）も「積極的なバックアップ」を行っていく。

地域文化のｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ役の資質

①一定の素養（文化芸術分野など）
②地域内での“人脈”
③外に向けた発信力
④域内の各主体をつなぐ力
（コミュニケーション力など）

調査研究の「対象」（テーマ・項目等）について

●「関係者の意見」をよく踏まえた対象の選定

・本業務では、**「文化的コモンズ形成」**との関連で、前述の指定管理者の役割を踏まえつつ、調査研究の対象として、例えば、下記のようなテーマや項目を想定している。ただ、実際の調査項目については、行政当局や地元関係者の意見をよく踏まえて判断していく。

テーマ分野	要調査項目（例）
基本的・全般的なテーマ	・文化施設（ホール等）は、文化的コモンズ形成の点で「他の類似主体」（公民館、図書館、学校、等）とどの点でどう違うのか？ ・大震災のような「非常事態（非日常）」が起きてない状況下で、公共文化施設は、「文化的コモンズ形成」の点で（どのような）役割を果たせるのか？ ・地域の芸術文化では、どんな「形態」や「媒体」のものがあるか？ 例）画像・映像・音楽・舞踏・口承、デジタル・アナログ、等々 ・「地方」と「都会」では、文化的コモンズとその形成に関して、どんな違いや共通点があるか？ ・文化的コモンズ形成の関連で、同じ地域内で「旧住民の地区」と「新住民の地区」がある場合、どのような課題等があるか？ ・文化的コモンズ形成上の課題にもなっている「若い世代の域外流出」や「地域コミュニティの希薄化」について、現状や対策はどうなっているか？
鶴見区に関するテーマ（地域資源など）	・鶴見区には、文化的コモンズ形成に関係するものとして、どんな「主体」（個人、団体・施設等）があるのか？ ※こうした多様な主体の「相互の関わり」が地域固有の文化的コモンズ形成につながる、という視点を踏まえる。 ・鶴見区で、地域を代表するような「伝統芸術・文化」（お祭り、踊り、行事等）にはどのようなものがあるか？　また、過去に停止したものも含め、こうした伝統芸能は今、どのような状況になっているのか？ ※伝統芸能が地域の「象徴」や「アイデンティティ」として住民の心の支えになっている（または、なり得る）という視点を踏まえる。 ※特に「地域伝統芸能」で大小・種類を問わない。
鶴見区に関するテーマ（各種活動等の状況など）	・鶴見区の人達は、地元の伝統文化（祭り・慣習等）に対し、どの程度の思入れや関わりがあるか？ ・区内の「学校教育」（部活、授業等）の中で継承・育成されている伝統芸能等はあるのか？ ・区内では、東日本大震災の後に、地元の伝統芸能や文化芸術活動で特筆すべき動きはあったか？ ※特に、地域住民主導による「復旧・復興に向けた動き」、など。 ・区内に地元の文化資源関連で活動しているコーディネーター的人材はいるか？
その他（本施設の関連など）	・本施設には「地域文化のコーディネーター」としてどんな役割や実態があるか？ ※地域内に様々なコミュニティがある中、いかに接触や交流を行っていくか？

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

15　調査研究

具体的な取組

＜全体的な流れ＞

●作業目的を明確にして「段階的に実行」

・本業務は、指定管理5年間で、下記4つの目的に即して、原則、**①から④の順番で段階的**に実施していく。特に平成 28 年度は、地元関係者等とも連携しながら、「**①情報収集**」を基軸に、「**②保存・整理**」までの動きに注力する予定。

①情報の収集（発掘）
②情報の保存・整理　⇒地域資源の"アーカイブ化"へ
③情報の公開（外部への情報発信・広報）
④情報の活用（より精緻な調査・分析、学術的な考察、関連イベントの実施、等）

＜基本的な作業（段取り）＞

●通常の作業：「段取り」を踏まえて的確に実行

・平成 28 年度を中心に、原則、主に下**記の順番（1）～5））**により、各種作業を着実に進めていく。

1）事前の準備(主に情報収集)

①文化的コモンズに関する「基本的知識」の習得
文献・ネット等の関連資料を精査。
※職場全体で協働して取り組むことも重視。
⇒調査研究の上での基本知識と視点を身に付ける。

②地域文化資源等に関する「地域の情報」の収集
地元の人・団体・活動・イベント等を文献・ネットで調査。

「地域文化資源」の情報（例）
＊文化芸術関連の団体・施設等
＊NPO　＊まちづくり団体
＊図書館　＊公民館　＊自治会
＊商店街　＊地場産業　＊神社仏閣
＊お祭り　＊地域伝統芸能　等

2）「全体の作業方針」の検討・確定
文化的コモンズ関連の業務全体を視野に検討。
※行政等関係者との調整も踏まえて実施。

3）地域関係者への「接触」及び「ヒアリング」
①「市・区の関係機関」（図書館、博物館等）へのヒアリング
②「地元関係者」（地域の団体・NPO 等）へのヒアリング
※上記は、「地域ネットワーク形成」（地域との連携）の目的も兼ねて、戦略的に実施。

4）収集した情報の「整理・集約」（簡単な分析を含む）
事前調査、関係ヒアリング等で得られた結果について「情報整理」及び「簡単な分析」を実施。

5）次の作業ステップに向けた「作業方針」の検討・確定
⇒確定した方針に基づき、本業務に関わる作業を続行。

●地域の人達との「接触と会話」～諸活動の基盤となる「人間関係づくり」から

・通常の基本作業とは別途に、地域の人達と、出来る限り多く会って会話をする。最初は、雑談を中心にして**「人間関係作り」に注力**する。最初は質問やお願いをせずに、相手の話を伺うことに徹する。

・先方がどんな課題やニーズを持っているか等について時間をかけて把握し、「一定の人間関係」が出来てから、指定管理者側で知りたいことや頼みたいこと等を持ちかけてみる。

●「職場内勉強会」（定例）の実施　～短時間で簡便な形式で「持続的な取組」へ

・事前に特定テーマを設け、それに基づく関連資料を各自で読んでおき、各人が「自由な感想」を述べ合うミーティングを定期的に行う。その際に、自分達の職場に活かせるかなどについても話し合う。

・例えば、月1回で毎回1時間以内など、会は簡便にする。それにより、スタッフの「負担軽減」と「モチベーション維持」を図り、各スタッフが持続的に関われるようにする。また、当会を通じて、**「①（まずは）知る⇒ ②考える⇒ ③活かす」という流れ（習慣）**を、各スタッフに自然に身に付けてもらう。

＜付加的・発展的な取組＞

●「鶴見区文化協会」との幅広い連携

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

15　調査研究

・区内の主な文化芸術系団体が参画し、30年近く続く**「鶴見区文化祭」**の実施母体でもある「鶴見区文化協会」と幅広く連携・協力させていただく。区内の芸術文化資源に関して、当協会が有する「優れた知見」と、長年培ってきた「豊富な人的なネットワーク」も活用させていただきながら、本施設での文化的コモンズ関連等の調査研究業務を効果的に推進していく。

●「図書館等」との積極的な連携・協力

・地域文化資源の収集等にあたっては、「郷土資料の収集・保存」を重要業務の一つとしている図書館や博物館等に対し、**「当該施設保有のデータ活用」**や**「調査関連事業の共同実施」**など、積極的に連携・協力を図っていく。

●「アート系大学」との連携　～調査研究への「支援」の働きかけ

・市内等のアート系大学・学部と連携し、本施設の“キュレーター的な存在”（学術的・専門的な見地からの助言や支援）を担っていただく。例えば、本施設において、**「学生インターンの受入れ」**の動きとも合せて、当該大学の「研究者等による講習会や研修会」の開催を働きかける。

＜将来的な取組（例）＞

●東北被災地など「先進地域」への現地視察（出張）

・文化的コモンズで注目された「東北の被災地」では、**「文化的コモンズ」**（地域でのネットワーク構築、地域文化資源の保存・活用等）で先進的な取組みを行っている所が少なくない。

・こうした先進的な地域や施設の事例について、**「代表団体の全国的なネットワーク（共立グループ）」**を活用して、現地視察などの取組（出張による調査・研修等）を検討する。

平成 28 年度分の事業（具体例）

●関係先とも連携して「効果的かつスムーズな実行」へ

・下記の各事業等は、**本施設現場の担当スタッフ**を中心にした**実施体制**によって、連携先等、関係者と緊密に連携しながら、効果的かつスムーズに実行していく。

・なお、**「実施の頻度」**については、関係者との調整などもあるため、現時点で暫定的なものであることをご留意いただく。

取組・事業	概要/体制/意図等	頻度	効果	連携先等
事前準備（情報収集等）	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 ※特に年度前半の早い段階）	・基本知識・スキルの習得	—
地域関係者への接触・ヒアリング	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 ※主に年度後半に実施	・情報収集（地域文化資源の発掘等） ・地域との関係作り（ネットワーク形成）	*※前述*
収集した情報の整理・集約	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 ※主に年度後半に実施	・地域との関係作りに向けた事前準備	—
職場内勉強会の開催	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 ※年度後半頃を目途に開始 ※月1回程度	・基本知識・スキルの習得 ・地域との関係作りに向けた事前準備	—
鶴見区文化協会との連携	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 （適宜）	・情報収集（地域文化資源の発掘等） ・地域との関係作り（ネットワーク形成）	—

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

16　広報・プロモーション活動、情報提供

指定期間（5年間）に実施する事業概要（方針）

広報・プロモーション

本施設をベースにした「幅広い取組」

●「定番の各種取組」をさらに充実へ

・一期目で実現し、定番となっている下記の各種取組を、改善や工夫も盛り込み、引き続き実施する。

取組	概要/ポイント
情報コーナー（館内）	・ｲﾍﾞﾝﾄ・教室、ｻｰｸﾙ等の豊富な情報を分かりやすく案内（掲示、ﾁﾗｼ用ﾗｯｸ等）。
「催し物案内」の発行	・本施設の催し物を紹介する紙媒体（4500部/月）。部数拡大と広告掲載へ。
ダイレクトメール	・送付先リスト（約900件）をさらに拡充へ。
駅内サインスタンド	・「JR鶴見駅構内」のチラシ掲載スタンドにチラシを配架。
大型の施設名表示	・ｼｰｸﾚｲﾝ3F窓ガラスに、外側に向けて「本施設名」を大きく表示（掲示）。
本施設のロゴマーク	・プロのデザイナーにより独自に制作。チラシ等、各種媒体に幅広く展開。
館内ﾃﾞｼﾞﾀﾙｻｲﾈｰｼﾞ	・1F入口と3F受付に設置：利用状況・各事業等の情報配信をさらに強化へ。

●施設オリジナルキャラクター「サールくん」の“増殖・強化”

⇒様式25（アイデア・ノウハウ）を参照

地域内での「活発な連携」（広報の相互協力など）

●「地元の各種団体」と、より緊密な関係づくりへ

・広報上の地元連携先では、過去4年で電話や訪問等の地道な努力によりその数を着実に増やし、毎月、**区内等の公共施設・商業施設等（200件以上）**にチラシ配架が出来ている。今後は、より地元に密着して、**自治会、商店会など、連携先の拡充**に努めていきたい。

●「シークレイン内」及び「駅周辺店舗」との積極連携

・シークレイン内や近隣の商業店舗に働きかけ、店舗ごとに、**チラシ配架**や**「チケット半券持参での飲食割引」**などのサービスを行う。

・**シァル（鶴見駅ビル）内店舗**とは既に連携済みで、今後は駅周辺店舗を中心に対象を拡充していく。

＜主な地元連携先（候補含む）＞
- 幼稚園・保育園
- 小・中学校
- 自治会・老人会・子供会
- 各店舗、商店会
- 区民センター・図書館等
- 介護・老人施設、病院
- 地元企業（事業所・工場等）
- 地元サークル・NPO

「マスメディア」への広告＆働きかけ（記事掲載）

●「プレスリリース」の効果的な作成と活用

・これまで蓄積してきた「メディア送付先リスト」に基づき、事業ごとに独自に作成し、発送している。年度ごとに**「メディアでの掲載本数」**（年間 20～30 本程度）も着実に増加し、相応の効果を上げている。

●「多様なメディア」（テレビ・新聞・雑誌等）による積極的な広報

・下記媒体の広報を継続し、特に、これまで高い放送実績を誇る**「視聴者へのチケット贈呈」**と絡めて、**「TVK（テレビかながわ）」**や**「YOU TV（地元ｹｰﾌﾞﾙ TV）」**等のテレビ媒体での宣伝を強化していく。

ローカルペーパー	・タウンニュース等の地元媒体へ掲載（無料）。
広報よこはま（毎月）	・自主事業等の情報を区内全域に幅広く広報。
新聞広告（年数回）	・新聞をよく読む年配層（特に男性）へのアプローチとして有効。

区民（特に未利用者）への「直接的な働きかけ」

●アドパフォーマンス～本番宣伝を兼ねた「屋外でのミニ演奏会」

・近年好評を得ている、シークレイン1階入口や**「ミニ演奏会（無料）」**（レジデントアーティスト等による演奏）を、今後は、展開場所や演奏スタイルも工夫しながら、拡充していく。

●地域の人達に“顔”と“声”で直接アプローチ

・定着しつつある**アウトリーチ活動**（地区センター、学校等）を活用し、演奏後にチラシ等を一人一人に手渡し、声をかけて回る。

・整備が進むJR鶴見駅東口をはじめ、駅西口・京急鶴見駅周辺でスタッフがチラシを直接配布する。

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体

16　広報・プロモーション活動、情報提供

情報提供（発信）

インターネット・ＳＮＳの積極的な活用へ

●既存ツール（ホームページ、メールマガジン等）の充実化

・ホームページは、レイアウトを一新し、情報の整理・分類、関係先へのリンク強化など、**「大幅なリニューアル」**を行う。メールマガジンについては、テーマや内容をさらに工夫し、**「購読者数の増加」**を目指す。

●「ツイッター」「フェイスブック」での活発な発信

・これまで活発に発信してきツイッターに加え、平成 27 年度から**フェイスブック**を開始しており、引き続き**「登録者数の拡大」**に力を入れる。

・また、SNS の「即時性」を活かし、空室等の情報は、**「直前利用が可能」**などと、目立つ形で**リアルタイムに発信**していく。

●「ネットでの動画配信」（ユーチューブ等）の活用

・イベント等公演を録画し、**著名な「動画共有サイト」（ユーチューブ等）**での発信を強化する。当日来場できなかった人、本施設を知らない人等、幅広い層に対し、動画の持つ**臨場感**を活かして、興味深く発信していく。

・また、**「生中継で動画配信できるサイト」**（ユーストリーム等）については、今後も、積極的に活用していく。

●「LINE（ライン）」の導入

⇒様式25（アイデア・ノウハウ）を参照

「平成 30 年度ホール停止」に関する周知

●「早い段階」から幅広い周知へ

・早い段階から各種媒体や現地での説明の場を設けるなど、その概要を周知し、詳細が固まる過程で、順次速やかに正確な情報は発信していく。それにより、区民等の方々の**「不安解消」**や**「混乱回避」**につなげる。

28 年度分の事業（具体例）

●「現場主導」による着実な実行

・下記の各取組（事業等）は、**現場の担当スタッフ**（複数の自主事業担当など）を中心にした**実施体制**により、本社のバックアップも得て、**相互に進捗等バランスも取り**ながら、着実に実行していく。

事業	概要・体制・意図等	頻度	効果	連携先等
定番の各種取組	*※前述（本様式内を参照）*	・通年 ※ダイレクトメールは「適宜」	・認知度ｱｯﾌﾟ（視認性向上） ・集客（誘客） ・来館者の利便向上	*※前述*
地元団体との連携	*※前述（本様式内を参照）*	・適宜（ﾁﾗｼ配架：月 1 回）	・外部連携（域内ﾈｯﾄﾜｰｸ化） ・地元経済貢献 ・集客	*※前述*
ｼｰｸﾚｲﾝ・周辺店舗との連携	*※前述（本様式内を参照）*	・適宜		*※前述*
多様なメディアによる積極広報	*※前述（本様式内を参照）*	・適宜	・集客、認知度ｱｯﾌﾟ（特に広域）	*※前述*
アドパフォーマンス	*※前述（本様式内を参照）*	・適宜	・集客、新規顧客獲得 ・地域貢献（文化振興、活性化等）	*※前述*
アウトリーチ活動	*※前述（本様式内を参照）*	・年 10 回		*※前述*
インターネット・SNS 活用	*※前述（本様式内を参照）*	・通年（日常） ※動画投稿は適宜。	・認知度・集客ｱｯﾌﾟ（話題性作り） ・新規顧客獲得（特に若者）	*※前述*

団 体 名	神奈川共立・ハリマビステム共同事業体